



「和解の務め」音信

Ministry of Reconciliation in South Africa

(23-1)

Mar. 2023

金煥・朴貞玉

「神は、キリストによって私たちをご自分と和解させ、また、和解の務めを私たちに与えてくださいました」(Ⅱコリント 5:18)

昨年11月、南アフリカに戻って最初に取り掛かったのは、宣教農場を管理し、色々な課題を推進して行けるマネージャーを採用することでした。知人の紹介で、牧会者であり農場経験が豊かなティモシー・マジョラ氏と出会い、彼を迎え入れました。



1. 農場マネージャーの採用

今年も神の祝福の中、同労者の皆さまの祈りが豊かに答えられ、全てが栄えることをお祈りいたします。3月末で日本同盟基督教団の委託派遣宣教師の職から離れることになりましたが、現地に残り、続けて働かせていただきます。やるべき事が沢山残っておりますし、幸い健康も許されており、主が引退のしるしを送ってくださいる時まで、余力を尽くしてまいります。

次に手掛けたのは、牛舎とフェンスを設置することでした。乳牛ではなく肉牛を飼育するための牛舎でしたので、組立はそんなに難しいものではありませんでした。しかし、盗難防止のためのフェンス工事はかなり困難でした。鉄のパネルを25個購入し、それを柱に繋ぎ、80m設置しました。柱を固定するためコンクリート工事なども必要でした。幸いマジョラ氏とトラストさんによって、完成することができました。肉牛4頭、羊12頭を購入し、前からの羊5頭

2. 牛舎とフェンスの設置

財政的に負担となることでしたが、農場管理と仕事の前進のために決断しました。彼は助け手の青年トラストさんを連れて来ました。お互いを知るため6か月間の臨時採用という契約を結びました。彼の協力で予想以上に物事が前進し、神に感謝を捧げております。

ペンキ塗り、花壇造りなど、色々なボランティア奉仕をしてくださいました。もちろん私たちも一生懸命食事を作り、もてなしました。食事の時、黒人、白人、アジア人が、一つのテーブルに座りました。これこそ小さいもべたちが目指して来た和解の務めに合わせました。広い農場の中で、家畜を多く見かけるようになりしました。

3. ボランティアたちの訪問



そのような中、突然ゲストを迎えました。知り合いの白人夫婦の家にニュージールランドから1家族が訪ねて来ました。私たちの宣教農場ベツシャロムについて紹介され、訪ねて来たのです。2月に2回も来て、草刈り、



そのような中、突然ゲストを迎えました。知り合いの白人夫婦の家にニュージールランドから1家族が訪ねて来ました。私たちの宣教農場ベツシャロムについて紹介され、訪ねて来たのです。2月に2回も来て、草刈り、ペンキ塗り、花壇造りなど、色々なボランティア奉仕をしてくださいました。もちろん私たちも一生懸命食事を作り、もてなしました。食事の時、黒人、白人、アジア人が、一つのテーブルに座りました。これこそ小さいもべたちが目指して来た和解の務めに合わせました。広い農場の中で、家畜を多く見かけるようになりしました。

4. 祈祷課題

の結実であり、シャロム共同体の姿ではないかと心に留めていきます。

- ①南アフリカで始められた「和解の務め」が続けて発展し、実を結べるように。
- ②日本にいる子どもたちが神を真実に信じ、愛し、神に栄光を帰することができるように。
- ③宣教農場ベツシャロムが守られ、宣教のために有効に用いられるように。



4月以降は、和解の務め支援会を通して、ご支援よろしく願い致します。